財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
10年度

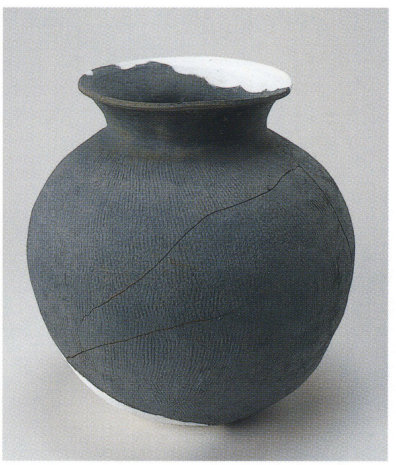
1999

㈶愛知県埋蔵文化財センター





志賀公園遺跡98Ⅰ区 帆立貝形前方後円墳 から出土した資料



遺物は、くびれ部・前方部コーナー・周堤部の各所に集中して出土した。

出土した遺物は、台付円窓壷・縄蓆紋をもつ須恵器などを筆頭に、鳥形木製品、勾玉・臼玉などの石製模造品がある。

古墳は５世紀前半代が考えられ、出土した須恵器は、東海地方の初期窯業生産を考える上でも重要な資料となろう。

伝法寺野田遺跡 出土の無茎銅鏃



無茎銅鏃は残存長3.0㎝、幅1.3㎝、厚さ（最大）0.4㎝で、側縁がほぼ直線的、明瞭な両鏑造の鏃身を有し、鋭角をなして窪む着柄部には、目釘が確認できる。時期は出土した層位から弥生時代中期中葉までにほぼ特定される。

有茎銅鏃の生産は弥生時代後期以降に各地で活発に行われることが知られる。この無茎銅鏃はそれ以前、弥生時代に中期における銅鏃の生産、流通を考えるうえで注目される資料である。

序

近年は経済的に低迷の状況が続いておりますが、公共事業に関する開発は変わらず活発であり、これに伴っての遺跡の調査も増大しております。

当センターにおきましては、今年度、７万４千平方メートルを越す面積の遺跡の調査を行い、その中心は第二東海自動車道路関連であり、調査全体の過半数となっております。

さて、埋蔵文化財の発掘調査と保護の啓蒙普及活動を本務としている当財団は１４年目を迎えました。本年度もこれらの発掘調査の概要や調査研究、普及活動などの記録を『年報平成１０年度』として公表することになりました。本書が考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用の上でもお役に立つことができれば、まことに幸いに存じます。

本書の刊行および発掘調査に当たっては、理事・専門委員の諸先生方および愛知県教育委員会のご指導を賜るとともに、建設省・日本道路公団・住宅都市整備公団・愛知県土木部・名古屋高速道路公社・地元各市町村そのほか関係者の方々から多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、昭和６０年度に設立された本センターは、平成１１年度から、「財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター」に衣替えすることになりました。今までのご支援に心から感謝申し上げますとともに、新しい埋蔵文化財センターにも変わりないご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成11年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　塩見修哉

例　言

1．本書は財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成10年度における事業の概要をまとめたものである。
2．発掘調査および整理報告書の作成は、建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、住宅都市整備公団、愛知県土木部名古屋高速道路公社から、愛知県教育委員会を通じて委託を受け、本センターが実施した。
3．調査の概要は、各遺跡毎にまとめて記載した。
4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・埋蔵文化財展など発掘調査以外の事業について掲載した。
5．調査に当たっては、理事・専門委員の各氏および愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導・助言をいただいた。
6．本書の編集は樋上　昇、中野良法、伊藤太佳彦（調査研究員）が、古橋佳子（調査研究補助員）の協力を得て行った。また、関係各機関や各遺跡の発掘・整理にかかわる作業員の方々に多大な援助を賜った。
7．各遺跡における調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。
8．各調査区の名称は、A区、B区・・・のようにローマ数字で表し、調査した西暦年度の下２桁を調査区名の前に冠した。したがって平成10年度の調査区は98◯区となる。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長
塩見修也

常務理事
堀尾満也

理事

伊藤　廉	愛知県教育委員会教育長
井関弘太郎	名古屋大学名誉教授
伊藤秋男	南山大学教授
坪井清足	(財)大阪府文化財調査研究センター理事長
楢崎彰一	名古屋大学名誉教授・愛知県陶磁資料館総長
渡辺　誠	名古屋大学教授
名倉庸一	都市教育長協議会会長
多田祐一郎	町村教育長協議会会長
伊佐治　敏	愛知県土木部長
永谷敏一	愛知県教育委員会生涯学習部長
中村　眞	愛知県陶磁資料館館長

監事
春日井文人（非常勤）
奥山真弘

専門委員

考古学	楢崎彰一	名古屋大学名誉教授・愛知県陶磁資料館総長
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学副学長
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	小寺武久	中部大学教授
考古学·動植物学	渡辺　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田次郎	京都大学名誉教授
保存科学	沢田正昭	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部長
岩石学	諏訪兼位	日本福祉大学教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

職　員

事務局長（兼管理課長）　鈴木順一

管理課

課長補佐	伊藤純一	
主査	鹿取健司	
専門員	杉浦俊雄	
主事	渡邉高夫	長瀬尚哉
	坂美貴子	岡田浩志

調査課

課長	鷲野　勉	
課長補佐（兼主査）	藤井孝之	福岡晃彦
主査	赤塚次郎	木下　一
	黒田哲生	北村和宏
	服部信博	
専門員	石黒立人	
主任	小澤一弘	宮腰健司
調査研究員	松田　訓	伊藤秀紀
	浅井厚視	花井　伸
	佐藤公保	春日井毅
	中野良法	後藤英史
	酒井俊彦	池本正明
	川井啓介	小川芳範
	宇佐見守	鈴木正貴
	魚住秀史	樋上　昇
	飴谷　一	加藤博紀
	伊藤太佳彦	木川正夫
	堀木真美子	永井宏幸
	鈴木達也	鬼頭　剛
	田中伸明	成瀬友弘
	武部真木	蔭山誠一
	川添和暁	永井邦仁
	早野浩二	

（平成11年２月１日現在）

目　　次

Ⅰ．平成10年度事業概要 …… 1

Ⅱ．遺跡調査の概要 …… 5
調査の理由と工程 …… 6
平成10年度調査遺跡位置図 …… 8
各遺跡の調査概要
伝法寺野田遺跡 …… 10
清洲城下町遺跡 …… 14
志賀公園遺跡 …… 16
朝日遺跡 …… 24
岩作城跡 …… 26
八王子遺跡 …… 30
上品野遺跡 …… 32
鷲窯跡 …… 37
高坂遺跡範囲確認調査 …… 38
能見城跡 …… 40
岡島遺跡 …… 42
鹿乗川流域遺跡群 …… 44
本川遺跡 …… 46
川原遺跡 …… 52
郷上遺跡 …… 56
水入遺跡 …… 62
今町遺跡 …… 68
天神前遺跡 …… 72
水入遺跡範囲確認調査 …… 76
大脇城遺跡範囲確認調査 …… 78
八王子遺跡範囲確認調査 …… 79
ＮＡ311窯跡範囲確認調査 …… 80

Ⅲ．調査研究 …… 81
「松菊里型竪穴住居」の受容と展開　－日韓の比較から－
伊藤秀紀・永井宏幸・蔭山誠一 …… 82
伝法寺野田遺跡における弥生時代中期水田跡の調査
早野浩二・鬼頭　剛・尾崎和美 …… 108
清須城本丸付近の石垣の墨書　－「雜賀」「孫一郎」について考える－
浅井厚視 …… 128
東海地方における骨角製「狩猟具」小考　川添和暁 …… 140
豊田市郷上遺跡出土の瓦塔　永井邦仁 …… 150
刻骨と鋸歯状木製品に関する比較考察　－楽器説をめぐる諸問題について－
木川正夫 …… 160
岩倉城遺跡で確認された「集石墓群」と脂肪酸分析結果について
服部信博・鬼頭　剛 …… 182
濃尾平野上部完新統の堆積相と堆積環境　鬼頭　剛 …… 192
尾張連氏とあゆちの海 …… 201

Ⅳ．埋蔵文化財センターの活動 …… 217
埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会 …… 218
発掘調査技術等研修会・現地説明会 …… 219
資料の貸出・提供 …… 220
検討会 …… 222

Ⅴ．付篇（受贈図書一覧） …… 223